

## 福島第一原子力発電所現地確認報告書

### 1 確認日

平成30年 6月 1日（金）

### 2 確認箇所

- ・物揚場
- ・1～3号機室素封入設備設置予定地（旧有床救護所跡地）

### 3 確認項目

- （1）輸送貯蔵兼用キャスクの物揚場への陸揚げ（水切り）作業の状況
- （2）物揚場西側擁壁における湧水の状況
- （3）1～3号機室素封入設備の設置工事の状況

### 4 確認結果の概要

#### （1）輸送貯蔵兼用キャスクの物揚場への陸揚げ作業の状況について

3号機から取り出した使用済燃料を共用プールに輸送するためのキャスクが新たに3基物揚場に陸揚げされたことから、その状況を確認した。

- ・午前9時から9時30分頃にかけて、物揚場では、班長及び玉掛け合図者と記載されたビブスを着用した作業員の指示のもと、クレーンでゆっくりと輸送船から物揚場にキャスクが陸揚げする作業が行われた。

（写真1）

- ・特段トラブルが発生することなく、作業が行われた。



（写真1－1）



（写真1－2）

(2) 物揚場西側擁壁における湧水の状況について

5月31日午後5時50分頃、物揚場西側擁壁において水が湧き出ていることを東京電力社員が発見した事象について、現場の状況を確認した。

- ・物揚場西側擁壁の亀裂部から水が湧き出ていたとのことであったが、確認時（午前10時頃）はすでに止まっており、付近の地面は乾いていた。（写真2）
- ・亀裂部の下流の地面には、湧き出た水が海へ流れ込まないように土のうが設置されており、土のうが設置された箇所の下流側は、水が流れた跡がないことから、海へは流込んでいなかった。（写真3）



(写真2)



(写真3)

(3) 1～3号機窒素封入設備の設置工事の状況について

1～3号機窒素封入設備の信頼性向上対策として、現在、T.P. 8.5m盤に設置している窒素ガス分離装置を廃止し、T.P. 33.5m盤に新設する作業が行われていることから、作業の状況を確認した。

- ・当該設備を新設するエリアには、以前、有床救護所の建物が設置されており、平成29年11月より解体工事が進められていたが、現在は建物の解体が完了し、窒素封入設備を設置するためのコンクリートの基礎工事が行われていた。（写真4）



(写真4-1) 建物解体前の状況  
(平成29年11月27日撮影)



(写真4-2) 建物解体後の状況  
(平成30年6月1日撮影)

5 プラント関連パラメータ確認

各パラメータについて、前日と比べ有意な変動は確認されなかった。